INTERVIEW：インタビュー

日本テレビプロデューサー

矢野 尚子さん

今月のインタビューは，日本テレビの情報・制作局 担当副部長 統轄プロデューサーの矢野尚子さんです。矢野さんは，過去に「The サンデー」「ザ！世界仰天ニュース」「news every.」「ずるい奴らを許すな！ 目撃！Gメン徹底追及スペシャル」「悪い奴らは許さない！ 直撃！怒りの告発スペシャル」「Cancer gift」「千手観音の祈り～ドイツ国際平和村の子供たち～」，現在「ZIP！」「はじめてのおつかい」「I LOVE みんなのどうぶつ園」「24時間テレビ」「超無敵クラス」を担当されています。お話を伺い「テレビ番組を作る仕事」が少し理解できました。

聞き手・構成：町田 弘香

なぜディレクターからプロデューサーへ？

── 矢野さんは，「ニュース／報道」「情報／ワイドショー」「ドキュメンタリー」「バラエティー」番組のプロデューサーということになるのでしょうか。

そうですね。入社したときは，報道志望だったのですが，情報番組の担当になったんです。『The サンデー』をADとして担当していました。

── ADの次は何になるんですか。

ディレクターになりました。

── それからプロデューサーですか？

はい。もう15年以上。ただし，プロデューサーがディレクターより偉いわけではないんです。演出や編集が好き・得意な人はディレクターを続けますし，番組全体を企画・統括する立場が合うならプロデューサーに。私の場合は，ディレクターをしていた時期に，休み無しの徹夜続きで働き過ぎ，体を壊してしまい…自分に問い直しました。このまま自分でカメラを回したり編集したりテロップ入れの作業，続けていけるのか？と。

── ディレクターはそういう作業を人にさせて監督すると思っていました。

以前はそうでした。カメラも昔は特殊機材だったので，回すのはカメラマンでしたし，テロップも編集マンが入れていたんですけど，今は家庭用機材の画質が向上して，情報番組やバラエティーでもディレクターが自分で撮るようになり，編集も昔は特別な機械でなければできなかったんですけど，今はパソコンでできちゃうんです。テロップも簡単に入れられるようになったから一人で番組を作ることができます。今。それで，体を壊した時に，アシスタントプロデューサーをやってみる？と言ってくれた上司がいて，そこから『ザ！世界仰天ニュース』へ。

── プロデューサーというのはどういう仕事をするのでしょうか。

プロデューサーは，番組企画の方針やアウトライン

をまず決めて，それをもとに演出する人と話を進め，じゃあ，司会はこの人にしませんか，これぐらいのお金をもらってきたからこの予算で作りましょうか，この分野が得意な制作会社があるのでお願いして一緒に作りましょうかなど，番組を作る環境やチーム作りをする人という感じですね。

プロデューサーとしてヒット企画誕生

── 企画は誰が立てるんですか。

企画はプロデューサーが出すことも，演出が出すこともあります。

例えば，他局で高視聴率ほぼ確定の人気スポーツの中継をやる，だからウチは大型特番で対抗したい！と編成部から話がある。そこで私たちが，その枠に合いそうな企画案を書いて提出し，編成部が乗った時にそれが番組として動き出す，ということもあります。実際に，テレビ朝日でサッカー日本代表戦が中継される時，私が中心で考えた企画が通ったケースが，ゼロから作った『ずるい奴らを許すな！目撃！Gメン徹底追及スペシャル』です。

── あれ，矢野さんの企画だったんですか。

そうなんです。私が企画から出しました。

── どうでしたか？

サッカーの他にもフィギュアスケートのグランプリファイナルなど年に何回か他局で放送される，高視聴率が確約された“強いソフト”になんとか対抗できる番組を，と作って，視聴率的にも結果を残し，以降シリーズとなって何本かプロデュースしました。

── もう作らないんですか？

私が報道局を卒業して情報・制作局に来ちゃったので。

── 担当者がいなくなると番組が終わることもあるんですね？

番組ってやっぱり人の熱意で育つものなので，そういうこともあります。

プロデューサーとコンプライアンス

── 今まで一般的なプロデューサーの仕事というのを伺いましたが，矢野さんにとってはどういう仕事になるんですか。

プロデューサーには様々なタイプがあります。出演者のキャスティングが得意なタイプや，ディレクターと共に演出まで考えるタイプなど。私の場合は「番組を守る」ことに強いプロデューサーだと思っています。間違ったことを放送しないための「クオリティー管理」でしょうか。気になった点は，社会通念を逸脱した表現になっていないか？ 何より，法律に抵触していないかなどをチェックします。

それから，報道志望だったこともあり，今，起きていること，今，伝えたいこと，役に立つことを放送して，誰かに楽しいなとか，役立ったなとか思ってもらえる番組をよりたくさん放送できるように心がけているつもりです。

── 法律関係だと，どんな勉強などをなさるんですか。

例えば，食品衛生法ですね。コロナ禍になって，テレビでは飲食店のテイクアウトを紹介することも多いんですが，そこにも法律や保健所の厳しい決まりがあります。そういうことを勉強したり，研修会も実施したりしています。

── それが番組を作るときにどういうふうに影響するのでしょうか。

以前飲食店で頑張る人々のドキュメンタリーを放送することが多くありました。例えば自宅で仕込んできた料理をそのままお店で提供するという話があったとしても，許可のない家で作ったものをお客さんに出したらだめなんですよね。

── じゃあ，そういう放送をしないために勉強をするんですね。

そうです。

もう一つ大きな問題が，いわゆる「SNSでの誹謗中傷」です。番組出演がきっかけで，それがエスカレートし命を失うまで追い込まれたケースもありました。卑怯な誹謗中傷に対してどういう対策が取れるのか，万が一そういうことが起きたらどうしたらいいのかということを，大学時代みたいに，法律の差し止め請求の勉強をしたりしてます。

大型特別番組『24時間テレビ』

──『24時間テレビ』でのプロデューサーの仕事内容も同じですか。

『24時間テレビ』は，毎年，日本テレビ系列で一丸となって取り組む大きな番組です。40年以上の歴史の中で，長時間の生放送としての進め方や役割分担もある程度固まっていて，例えば，新人の仕事も決まっています。1年生は毎年，歌詞をカンペにしたり，台本をまとめたり。プロデューサーもおそらく100人以上関わっています。

── 矢野さんの仕事はなんでしょうか。

ここ数年担当していることでいうと，日本テレビは日本テレビ系列と言って札幌テレビから鹿児島讀賣テレビまで約30局と一緒に放送をしているんです。日本テレビは関東圏だけの放送ですが，全国に放送するときは各地のテレビ局と協力して同じ番組を放送しています。そこで，『24時間テレビ』でも各地の局に今年の『24時間テレビ』で放送したい内容はないですかという企画募集をしますが，そのネット局担当をここ数年やらせてもらっています。

私は朝の情報番組『ZIP！』も担当していますが，実はかつて放送していた『ズームイン!! 朝！』の流れをくむノウハウや体制が受け継がれています。『ズームイン!! 朝！』では各地の中継がありました。名古屋にズームインとか，大阪にズームインとか。そのネット局との関係性の強さを生かして各ネット局の制作担当者とやりとりをして，『24時間テレビ』の中にいろいろなネット局の企画を放送するお手伝いをしています。

── 今年のネット企画はどうでしたか。

今回の「24時間テレビ」メインパーソナリティーはジャニーズの若手グループKing & Princeでしたが，彼らが挑む「全国スゴ技達人5番勝負」という企画を行うことになりました。演出陣のイメージに合うように，私が各ネット局の担当者に，各地の面白いイベントを問い合わせたり，さらに詳しい情報を聞き取ったりします。すると，ズワイガニの一大産地の鳥取にある「かにっこ館」の競技「カニの甲羅積み」とか，長野の佐久で開かれていた「プルーン種飛ばし」とか，子宝・安産の神様として知られる熊本・湯前町にある潮神社の「哺乳瓶のミルクを吸う選手権」などの情報が寄せられました。番組では各地の達人と東京にいるKing & Princeが対決しました。

── 誰がどれに挑戦するかはKing & Princeの5人のメンバーが自分で選ぶんでしょうか。

基本的には，番組側で，この種目はこのメンバーが得意なのではないかと考えて提案しました。実際にいい勝負になるのか？ 達人相手なので全く歯が立たないのか？ 生放送なのでフタを開けるまで分からないことが多かったんですが，King & Princeが5番勝負中三つ勝ったというのは驚きでした。

── それは，すごいことなんですか？

すごいですよ。経験豊富で，コツもよく知っている達人や連覇しているチャンピオン相手に，ぶっつけ本番に近い形ですから。

── そうなんですね。

長寿番組『はじめてのおつかい』

── 次は『はじめてのおつかい』なんですけれども，この番組の企画意図は何でしょうか。

この番組は，もともとは絵本がきっかけで始まりました。福音館書店に『はじめてのおつかい』とタイトルそのままの，とても有名な本があるんです。

── そうなんですか。

幼い女の子が，母親に頼まれて初めて一人で牛乳を買いに行く“大冒険”のお話なんです。小さい頃，誰もが体験したことのあるあのドキドキや，使命感，勇気，自分が誰かの役に立った充実感。待つ親の方も気が気じゃないけれど一人でやらせてあげたい。初めての中には，たくさんの思いが詰まっています。その瞬間をドキュメントできたら，と始まった番組なんです。さらに要素として，誰にも懐かしい日本が見られます。子どもが懸命に歩く所が，美しい景色だったり，地域の風習が見えたり，各地で特色があります。そんな日本の原風景みたいな懐かしさと共にお伝えできたらなと思って，全国各地で撮影しています。

── 好きな人が多い番組のような気がします。

そうですね。多くの方に愛していただき，今年で31年目になります。

── ものすごく長いんですね。それより長い番組ってほかにありますか。

『笑点』でしょうか（笑）。

── 出演する子どもたちはどうやって選ぶんですか。

番組が持つネットワークを通じて，広くお父さんお母さん方に声をかけ，アンケートに答えていただいて決めています。例えば，番組の新しいスタッフが瀬戸内海の小さな島の出身だったら，そこに絞って話を持ちかけてみたり，地元の保育園・幼稚園から当たったり。公募してオーディションを行っているわけではないので，こちらから詳しく説明したり足を運んだりもして。協力していただくご家庭には，番組用の特別なことではなく，普段通りの暮らしの延長に「おつかい」を設定してもらい，子どもたちの安全に配慮した万全の態勢で撮影に臨むことを守っています。

番組作りのこれから

── 仕事をしていてやりがいを感じるのはどういうときですか。

3年に一度位この放送ができてよかったと，これを私が伝えることができてよかったと心の底から思える時があって，そういう時に番組作りをしていてよかったと思います。

── ニュース，報道とか情報番組についてお考えはありますか。

もともと報道での番組作りを希望していたこともあり，テレビの本質的なことをよく考えます。言ってみると「テレビの役割とは？」でしょうか。例えば，記者クラブで取材をして，発表されることをそのまま伝えるのではなく，その裏に何があるか。これはどういう意味を持つのかということを放送する為には，日々勉強して，それを的確にとらえて放送していかなくてはいけないけれども，毎日毎日のことになり，放送時間もすごく多いと勉強するのが追い付いていかないと感じることもあります。ですので，勉強して，責任を持って放送するということをよりやっていかなくてはいけないと思っています。

プロフィール　やの・なおこ
1975年兵庫県神戸市生まれ。1999年東京大学法学部卒業。1999年日本テレビ放送網株式会社入社。「趣味ゴルフ」と書きたいけれど一向にうまくならず。山登りで心を癒やし，40歳を過ぎて始めた茶道に夢中。